

タイトル…『汐製菓会社の新作4 グミ4』

登場人物

汐（30代・男性）

汐製菓会社社長。快活で前向きな性格。どんなに奇想天外なアイデアでも信じて疑わない。「面白きことも無き世を面白く」をモットーに新しいお菓子のアイデアを次々と発案する。

塩田（30代・女性）

汐の秘書であり、会社の良識的な存在。真面目で心配性な性格。汐の大胆なアイデアについても振り回されるが、実は隠れたお菓子マニアであり、その情熱ゆえに製菓会社に就職した。

第一幕

場面1…汐製菓会社の会議室

（汐が大きなホワイトボードの前に立ち、何かを書きながら考え込んでいる。塩田はメモ

帳を手に、困惑した表情で彼を見つめている。）

汐：「次の商品はこれだ、塩田君！」

（汐がホワイトボードに「グミ4 よもぎ饅頭味」と大きく書く。）

塩田：「えっ？よもぎ饅頭味の……グミですか？社長、それは……少し変わってますね。」

汐：「そうだとも！変わっているからこそ、これが大ヒットするんだ！考えてみる、今までにこんな商品は無かっただろう？」

塩田：（ため息）「確かに、そんな商品は無かったと思いますけど……。お客様が本当にこれを喜ぶかどうかは……」

汐：「お客様はまだ自分が何を欲しているのかわからないんだよ！我々がその答えを示すん

だ！『グミ4 よもぎ饅頭味』でな！」

塩田：「でも……グミに和菓子の味を取り入れるのは、かなり冒険ですよ？」

汐：「冒険こそが成功への道だ、塩田君。さあ、今すぐ試作品を作るぞ！」

## 第二幕

### 場面 2：試作室

（汐と塩田が試作室に入り、職人たちが新商品の試作に取り組んでいる。職人の一人が不安そうに汐にグミのサンプルを差し出す。）

職人A：「社長、こちらが試作品の『グミ4 よもぎ饅頭味』です。試食をどうぞ。」

汐：（手に取って食べる）「うーん……！これは……！すごい！まるで口の中でよもぎ饅頭が踊っているようだ！」

塩田…（恐る恐る食べてみる）「えつと…：こ  
れは…：？うーん…：確かに饅頭の味がしま  
すが、グミとしては少し…：」

汐「斬新だろう？これこそが我々の目指す新  
しい味覚の世界だ！」

塩田…（心配そうに）「確かに斬新ですが…：  
果たして市場で受け入れられるかどうか…：」

汐「心配ない！試食会を開いて反応を見よ  
う！これで大成功間違いなしだ！」

### 第三幕

#### 場面 ③：試食会場

（汐製菓会社が主催する試食会が大規模に開  
催され、会場には国内外のバイヤーや消費者  
たちが集まっている。汐と塩田が会場を見渡  
している。）

塩田：「社長、皆さんの反応が気になりますね  
……」

汐：「塩田君、そんなに緊張するな。これが新  
時代の味覚を切り開く瞬間だ！」

（会場に集まった人々が『グミ4 よもぎ饅  
頭味』を試食し、さまざまな反応を見せ始め  
る。）

外国人バイヤー：「This… is interesting?  
But… what exactly am I eating? (困惑気味  
に)」

国内の消費者1：「え、なんだこれ？ 饅頭の味  
がする…でもグミ？ ちよつと複雑…」

国内の消費者2：「これは新しいかも！ 和菓子  
とグミの融合って面白い！」

外国人観光客…「ヨモギ…グミ？ワタシ、スキ  
カモ…」

汐…「見ろ、塩田君！皆、興味津々だ！この反  
応こそが成功の証だ！」

塩田…「ええ、そうですね…でも、少し複雑  
そうな顔も見えますが…」

汐…「複雑さこそが興味を引くんだ！この混乱  
が話題となり、口コミで広がるだろう。『グミ  
よもぎ饅頭味』は新しい時代を象徴する商品  
になる！」

#### 第四幕

場面…汐製菓会社の社長室

（試食会から数日後、汐と塩田が社長室で会  
話している。）

塩田：「社長、試食会の結果が出ました。皆さんの意見は……かなり二分しています。」

汐：「おお、そうか！大半の人がこれは面白いと言ってくれたんだろう？」

塩田：「実は……面白いと感じた人もいたが、正直に言うと、違和感を感じる人も多かったようです……」

汐：「それでいいんだ！商品というのは万人受けする必要はない。尖った商品こそが話題を呼び、特定のファンをつかむんだ！」

塩田：「ですが、市場での売れ行きが少し不安です……」

汐：「塩田君、この不安こそが次の挑戦へのエネルギーだ。私たちは常に新しい道を切り開く！次の商品開発を始めるぞ！」

塩田…(苦笑い)「また新しいアイデアがある  
んですね……？」

汐…「もちろんだ！次は……そうだな、和洋折  
衷の『抹茶マカロン味のポテトチップス』は  
どうだ？」

塩田…(驚愕)「社長、それは……またすごい  
発想ですね……！」

汐…「さあ、塩田君！これからも世の中を驚か  
せる商品を作り続けるぞ！」

塩田…「……はい、社長！」(心の中で)「でも、  
その前に少しだけ、普通のお菓子も作ってほ  
しいです……」

終幕



エンディング音楽が流れ、幕が閉じる。

## 結末

汐の奇想天外なアイデアは賛否両論を巻き起こしながらも、話題性を確保し続ける。塩田は毎回驚かさながらも、彼の情熱に引き込まれ、共に新しい挑戦を続ける決意を固める。果たして、次の商品はどんな驚きをもたらすのか——その未来はまだ誰にもわからない。